

連載企画

ぱれっと中期計画策定に向けて④

4月20日(土)、第4四半期理事会終了後、ぱれっとの5年後を見据えた「中期ビジョンを考える勉強会第二弾」が開かれました。参加したメンバーは、職員12名、理事7名、ぱれっと親の会から6名、たまり場ボランティアが1名、総勢26名が、3時間に渡り、グループ討論を主体としたワークショップを行ないました。

はじめに、前回の勉強会で、3つのカテゴリー(社会全体・個人・ぱれっとの組織)に分け、色々な意見が出されていたぱれっとのかかわりを通して自分が思い描く理想を再度確認しました。第一回勉強会で出されたキーワードを集計します。

■社会全体：障がいのある人の出番を多く・スタッフの処遇・違いを良さに・特別な存在ではなく、自然に溶け込んでいられる社会

■個人：楽しくて常に人が集まる場・新しいことに挑戦できるまたはチャンスが与えられる・共にある

■組織：情報発信力・インターネット活用・相談できる組織・誰もがふらっと立ち寄れる開けたスペース

■その他：働き続けられる職場・どのような立場でも新しい経験ができる組織

●キーワードを整理

それぞれのカテゴリーで出されたキーワードの中から、共通言語を見出す作業を行ないます。理事やスタッフで構成される中期ビジョン策定委員会で、定期的

に全体会へ向けての方向付けを行なっています。

障がいのある人の出番・チャンス・チャレンジ、思いやりや優しさから、違いを認め合いながら、地域の中で、みんなが自然に触れ合える場の提供、福祉の色合いを前面に押し出すよりも、楽しさの中から次の行動につなげられるアクションを模索していく。これらのキーワードに隠されている共通言語は何かを分析します。

ここからあぶり出された共通言語は、「共に」「チャンス」「つながり」。

ぱれっとは、働く・生活・余暇といった人の生き方をテーマに、外への発信(外に出かけていく)や人や社会資源を中へ呼び込むことを常に心がけ、活動の幅を広げてきました。この対内的・対外的な動きの意義や目的は何なのか、ぱれっとが大事にしてきた根本的な「人とのつながり」、場所や拠点に限らない、「人」を中心とした活動理念、この中期ビジョンを考える機会にもう一度根本から見つめ直す第二弾の勉強会としたいという思いが委員会で高まりました。なぜ外に出たのか、なぜ人を内に呼び込みたいのか。その動きによってぱれっとの組織が社会に対してどういった変革・効果をもたらすのか、意見を出し合い全体で共有するテーマでいく方向でまとめました。

●「つながり」から見えるもの

今回の勉強会のテーマは「つながり」。それぞれの立場の人たちが混合で4つのグループに分かれ、改めてぱれっとは、色々なつながりの中から事業を展開してきたことを顧みながら、それぞれの経験から語り合いました。今までのつながりには何があるか、ポストイットで自由に出し合い、実際につながっているもの、今後つながる必要性・可能性のあるもの、つながることでのメリット・デメリット、模造紙に書き出し整理していきながら、つながることでも得られるものは何なのか、ポイントを置き、つながることはなぜ必要なのか、つながることでも期待できることは何か、個人・組織・国、様々なつながりから、それぞれの立場が考えるつながり方について自由に意見を出し合う作業からスタートしました。

●つながることでのメリットとは？

人とのつながり方に、相手の顔が見えるつながりは誰しも大切に思うところですが、現代社会において、インターネットを介してのつながり方も、ひとつのつながりと呼ぶ人もいるでしょう。多くの若者がそれを当たり前とする社会現象なのか、そこに煩わしさや面倒臭さは感じられず、一見希薄に見えるような部分も逆にメリットと捉えられるかもしれません。

どういったつながり方にせよ、そこに求めているものは何なのでしょう。つながりの共通点を探っていきます。

●余裕からうまれるもの、見失うもの

「つながりを作るには、心に余裕がないと生まれない」という意見が出されていました。

《つながり＝創造性》

人が創造的環境に置かれるには、仕事や生活において「ゆとり」が持てる許容量に大きく左右されるようです。余裕のないところで新たな可能性は創造し難い、豊かな発想は生まれないのかもしれませんが。

それでは、余裕がないところでどうすれば余裕が持てるようになるのか、このテーマは昔のぱれっとの勉強会でも議論されました。結局のところ、物理的に周りからの理解と協力が得られなくなった時、或いは、自分で抱え込み過ぎて自ら発信すらも出来なくなってしまった時、自分自身でのコントロールが効かなくなり、余裕が持てなくなるという負のスパイラルに陥った時が余裕のない状態と言えます。

こうした孤立感や孤独感が心を占めてくることが、共感や安心感が損なわれた状態にあると理解できます。つながりが薄れてきた時に起こる人間関係の希薄さや組織としての発展性や展望を見失ってしまう状態をもう少し分析します。

第二回勉強会で話し合われた、つながりから安心感が得られるプロセス、安心・信頼・共感がぱれっとのビジョンにどう具現化されるか、いよいよ文章化に向けた作業を策定委員会で組み立てながら、7月の最終全体勉強会に向けた調整が進んできています。

(理事長 相馬宏昭)